

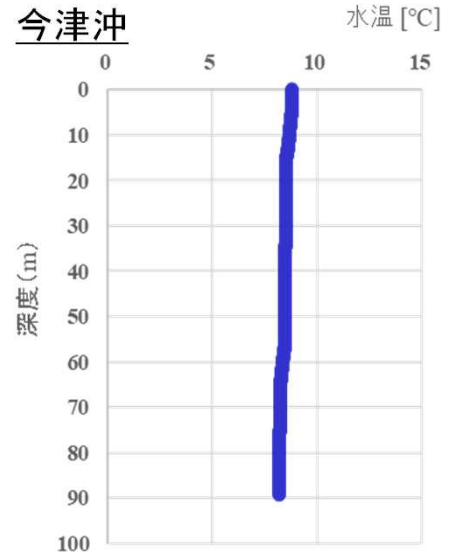
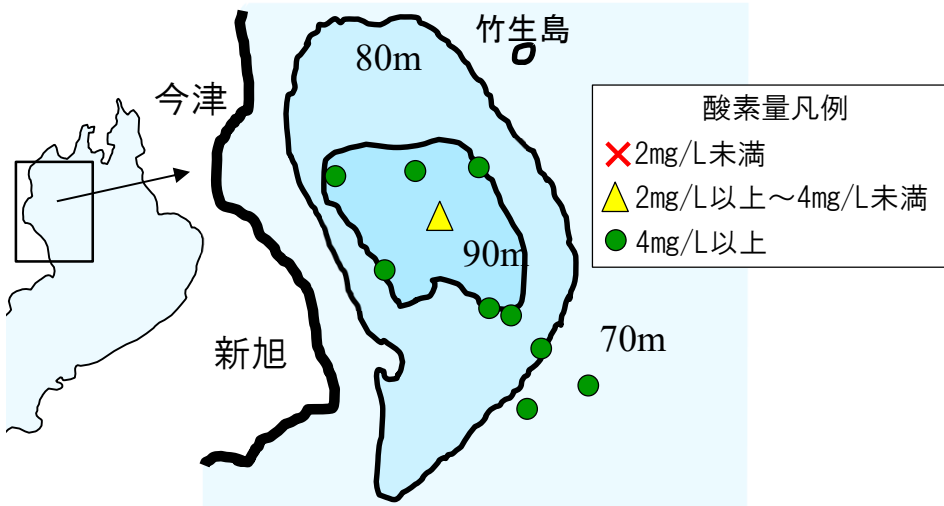
北湖沖合湖底の酸素量とスジエビ等の生息状況

2024年3月1日
滋賀県水産試験場

琵琶湖沖合の底層では、秋から冬にかけて酸素量が低下し、2mg/Lを下回るとスジエビなど魚介類の生存や分布に影響を与えることがあります。

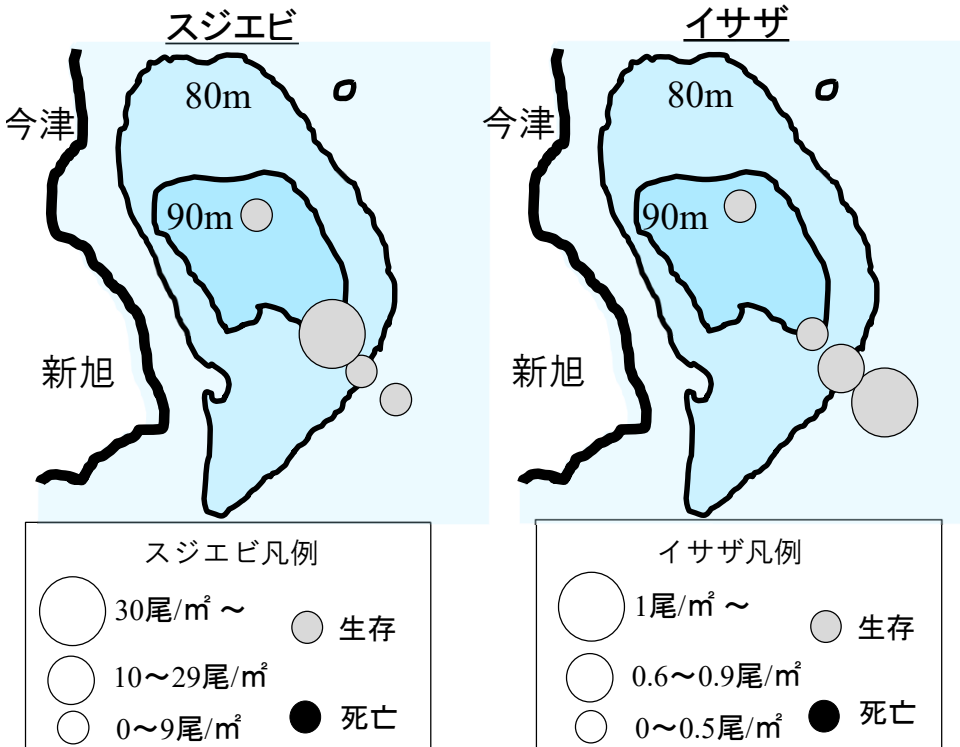
そこで、水産試験場や琵琶湖環境科学研究センターが実施した酸素量やスジエビ等の生息状況に関する調査結果をお伝えしますので、操業の参考にしてください。

○湖底等の酸素量(2024年2月19日～21日時点)



- ・水深90m水域の湖底直上1mの酸素量は湖盆の中央を除いて9mg/L以上でした。全層循環は確認されませんでした。
- ・表層水温は8.8°C、湖底水温は8.2°Cでした。

○スジエビ等の生息状況(2024年2月21日時点)



・スジエビの死亡個体はなく、新旭沖90mでの生存個体の密度は40.1尾/m²でした。

・イサザの死亡個体はなく、新旭沖70mでの生存個体は1.1尾/m²でした。